

みどりの ニュースレター

1
2012
No.224

市民の発信で持続可能な社会をつくる

特集：文明の転換 ～住宅・経済の視点から～

特定非営利活動法人

環境市民

¥200

収益の一部は環境市民の活動資金として使わせていただきます。なお、会員には毎月無料配布しています。

このニュースレターはボランティアの手で折られ発送しています。



あけまして
おめでとうございます
本年も宜しく
お願いします



21世紀 地球を、地域を、生活を、持続可能な豊かさに
<http://www.kankyoshimin.org/>



Twitterやってます！
アカウントは kankyoshimin です。

みどりの ニュースレター

No.224 2012年1月号

編集員が行く！ 02

近くて遠い「議会」へ

特集：文明の転換 ～住宅・経済の視点から～ 03-06

とれたて 環境市民 07-09

環境市民的ピフォーアフター ～環境市民が引越しました！～ / 社会を変える、社会に伝わる、NGOの広報力UP 講座 効果的な広報を行うコツって何？

お知らせ 10

みんなでつくる！ 交野が変わる！ 環境基本計画づくり進行中 11

交野市、環境基本計画策定中間発表会を開催しました“みんなで語ろう「かたの」のあした”～そのアイデア・教えて～

行事案内 12-13

読者交流コーナー みどりのかわらばん 14

1/ 環境市民 15

自分たちの買い物はどこへつながっているのだろう 意識するだけで世界が少し見えてくる/
高津 玉枝さん

次号
予告

みどりの
ニュースレター

No.225
2012年2月号

現在
編集中!

特集：文明の転換～真の民主主義とは～

持続可能な社会をつくるために民主主義がどうあるべきか考えます。

編集員が行く！

編集部のアナテナにかかった選りすぐりの
エコ情報を伝えます！

No.31 近くて遠い「議会」へ

12月は議会の季節。ということで京都市の議会の傍聴してきました。

とはいっても生まれて初めての傍聴。議会の仕組みもよくわかっていません。ネットで調べると会期は11月25日～12月12日。本会議の代表質問が12月1日。本会議？ 代表質問？ なにするの？ とわからないことだらけ。とにかく当日朝9時から傍聴券を配布するとあるので、時間通りに行ってみると第1号でした。10時から開会。開会時は私を含め3人くらいしか傍聴者はおらず、なんとなく予想していたものの拍子抜け（途中ですこし増えて10人弱に）。



荘厳な雰囲気のある京都市役所。市民でも必要がなければほとんど足を踏み入れないが……

配布資料を見るとこの日は夕方4時半まで8人の議員さんが「市政一般」について質問して市長さんなどが答弁するというものようです。傍聴席は3階にあります。さながら小型のコンサートホールのような会場正面中央には議長、向かって右側には市長と3人の副市長、反対側には事務局（行政職員）が議員席があります。10時きっかりに大勢が入場してきてすぐに開会。でも空席の議員席もちらほらあって、出席しなくてもいいのかな？ と疑問に思いました。議長の前には二人速記係がいてひたすらメモをとっています。パソコンで記録した方が早いのに、と思ってしまうのは職業病(?)のせいかもしれません。質問者は用意してきた原稿をかなり忠実に読み上げているようです。予め質問時間が決まっていますが、驚いたことにほんとうにしっかりと読み終わります。本題の質問の内容はさまざま。「市政一般」としか書けないのもなんとなく納得……。初めてということもあってそういう本質的でないところに関心が行ってしまいます。さすがに全部は聞けないので、午前中で会場を後にしました。

質問と答弁は正直言ってそれほど面白いものではなかったけれど、議員さんもそれぞれの関心分野を勉強されているな～というのが率直な感想。京都市のいろいろな情報が得られるのは確かです。勉強になりました。

ぜひ一度、みなさんの暮らすまちの議会の傍聴してみましょ。会期などは役所に聞けば教えてくれます。

(文/ニュースレター編集部 風岡 宗人)

特集：文明の転換～住宅・経済の視点から～

3月11日におきた東電福島第一原発の事故を受けて脱原発、再生可能エネルギーの転換への期待が高まっています。環境市民では、原発を推進してきた、科学技術偏重、利益優先、情報非公開（非民主主義）の文明から転換することの必要性を提案してきました（2012年11月号）。12月号では、交通と教育の視点からどのような転換が必要かを考えました。そして、今月号では経済と住宅の視点からどのような転換が必要か、を考えます。

文明の転換：住宅の視点から

日本の住宅の分野で必要な考え方の転換～ドイツから見て気づくこと

文/ジャーナリスト 村上 敦

資産価値の崩壊

日本という国には今現在、およそ1億2,700万人、そして約5,000万世帯の方々が生きています。また、日本では住宅のストック、いわゆる何世帯分の住宅がすでに建設されているのかを調べると、およそ5,760万戸という数字が出てきます。つまり空き家率が13%！

こんな状態であるにもかかわらず、いまだに毎年およそ80万戸の住宅が新築されています。日本では、住宅を新築することで、地域への経済や雇用の波及効果があるとされているため、国策でも各種の助成金や予算で、住宅の新築を特別に優遇し、本来は不動産を購入できないような人であっても、購入できるような仕組みにしています。

さて、見方を変えましょう。日本では2004年に人口がピークに達し、2030年（団塊の世代がひと通り平均寿命を超える頃）には現在からおおよそ20年間で1,200万人減少し、さらに2050年までには（団塊の世代での生き残りはほとんどおらず、団塊ジュニアがそろそろ平均寿命を迎える頃）、同じ20年間で2,000万人減少、人口は1億人を切ります。また、子供を生む可能性のある世代自体がすでに人口規模では縮小してしまっているため、今後、出生率が多少上下しても、2050年までの人口の数では、大きな差は出て来ません。

つまり2050年に日本は、人口でおよそ9,500万人（今後40年間で25%減少）という事態を迎えることになります。世帯数については、単身世帯の割合が増加するため、今のところ人口ほどの顕著な減少傾向はみられませんが、2020年前にはピークに達して、あとは一路、減少してゆきます。これは単なる予測ではなく、ほぼ確実に起こりつつある事実として理解してお

いたほうがよいでしょう。

それでも未だに、適齢期に達すると多くの人は（年間80万世帯！）、「フラット35」などの35年ローンなどで住宅を新築し、購入しています。とりわけ戸建て住宅はその6割強、実に50万戸建てられています。今年住宅を購入した人は、ローンが終わるのは2046年です。いったいどれだけの人がこの事実を理解しているのでしょうか？ つまり日本では、国策として、目先の経済波及効果と雇用効果を得るために、そのツケを将来の資産価値の崩壊で埋め合わせしようとしているわけです。

新築市場の崩壊とリフォーム市場の台頭

日本と同じような人口動態のドイツでは、人口の増加現象が終息しかけた90年代後半に、新築住宅に対する優遇政策の一切は打ち止めとなりました。その結果、統一後の90年代前半には50万戸程度あった住宅の新築は、現在では15万戸程度に縮小しています。住宅の新築は今でも人口が増加している大都市部、あるいは経済が強い南ドイツなどでしか行われていません。これは、市民の資産を守るために、線引きを厳しくして、都市計画上の政策で意図的に行われているものであって、市場原理に任せて放置している日本の状況とは大きく異なります。

そのかわりに台頭してきたのが、既存住宅のリフォームです。とりわけ建物の燃費が悪い80年代以前に建てられた住宅の省エネリフォーム（屋根裏断熱、窓・ドアなど開口部の取り替え、壁床断熱、給湯・暖房機器の取替え）は国策として推進されており、各種の補助金や低利子・無利子の融資が受けられるようになってきました。現在ではドイツの住宅ストック3,900万戸のおよそ1%、毎年約40万戸が省エネリフォーム

されるようになっていきます。

リフォーム、維持管理による地域の雇用維持

このように住宅の新築市場が崩壊してしまったドイツですが、それは住宅に限ったことではありません。公共の建物でも、商業ビルなどの非住居の建物でも、あるいは公共の基盤インフラ事業（道路など）でも同じです。人口が減少する社会では、新しいものをそんなに沢山建設することは必要でなくなります。

それに合わせてゼネコンなど大手企業は倒産が相次ぎました。理由は、そうした大手企業であると小回りのきくリフォームやインフラの維持管理といった手間のかかる仕事を大量にこなすことは無理があるからです。土木・建築も合わせた建設業界が抱える雇用数では、1995年当時と比較すると2010年にはほぼ半分に減りました。ただし、最も大きく減少したのは従業員200人以上を抱える事業体、いわゆる大企業で、従業員を20人以下しか抱えない地域の中小企業では、雇用数では減少していません。とりわけ住宅業界だけを取り出してみると、地域の中小企業は、新築中心のかつての時代よりも活気があると言っても間違いではないでしょう。

省エネリフォームの分野に関して面白い経済分析があります。国が2009年に省エネリフォームの分野に助成金や低利子の融資などで22億ユーロ支出しましたが、これによって民間投資がおよそ183億ユーロ引き出されました。同時にドイツは消費税が19%ですから、国が準備した22億ユーロの予算は、一時的な投資の部分だけでも回収できたことになります。地域経済への二次的、三次的な波及効果で言えば、支出したよりも多くのお金を国は手にすることができたことになります。そして同時に、この省エネリフォームへの投資によって、工務店など地域の中小の企業におよそ30万人分の雇用効果を与えたと結論づけられています。

暮らしの質の向上と環境への効果

さらに、この政策によって、追加で40万戸分の住宅がより燃費の良い建物に改修されることになりました。それぞれの家庭で平均400～600万円の投資をしたこととなりますが、この投資分は15～20年間のランニングコストの低下で、つまりエネルギー消費量の削減効果で償却されるのが普通です。現在のドイツの省エネ改修における規制では、外がマイナス気温になることも多い冬でも、ほとんど暖房を使わないで、家の

隅々まで20～23度の室温で快適に生活でき、夏場は外が35度を軽く超えても、エアコンなしで室温は25～28度で生活できるようになるのが目安とされています。

- ・ 国の財政負担があっても、消費税による回収で、将来の世代にツケを残さず、
- ・ 民間投資分はエネルギー消費の削減分で中期的には回収でき、
- ・ 市民の生活快適性を向上させ、
- ・ 気候温暖化対策の一番大きな柱である建物における暖房エネルギー消費の削減を実現し、
- ・ 社会の化石燃料、原子力からの依存度を低下させ、
- ・ 同時に地域の経済や雇用を守り、
- ・ 新築しないことで空き家の増加を防ぎ、市民の資産価値を保護する

といった、この素晴らしい政策は、人口縮小・経済縮小の背景を持つ場面では必須の政策と言えるでしょう。

ただし、この政策が機能するためには条件があります。日本のようにより安価な土地を求めた市場原理だけで住宅地開発が行われ、すでに郊外に戸建住宅が拡散していると、そもそも400～600万円を投資できるほどの土地に資産価値がない住宅ストックが膨大に存在します。また、できるだけ「数を沢山」というこれまでの政策は、安価で劣悪な住宅ストックを形成してきましたから、それだけのお金をかける意味が無い建物、資産価値がない住宅ストックが、これまた膨大にあるわけです。

これは、目先の利益で将来にツケを残してきた高度成長期以降の日本の典型的な姿です。このコラムでは解決策までは提示できませんが、これを読まれた皆さんが、今後、新築の戸建住宅を郊外に建てないことを願っています。

村上 敦……

ジャーナリスト、環境コンサルタント。執筆、講演などでドイツの環境政策、エネルギー政策、都市計画を日本に紹介する。

持続可能なまちづくりを提案する「一般社団法人・クラブヴォーバン」発起人。建物の燃費表示制度を提供する「一般社団法人・日本エネルギーパス協会」発起人、アドバイザー。

著書に「フライブルクのまちづくり」学芸出版社、2007年、「カーシェアリングが地球を救う」洋泉社、2004年など。訳書に「エコロジーだけが経済を救う」フランツ・アルト著、洋泉社。
ウェブサイト：<http://www.murakamiatsushi.net/>

宇宙船地球号の中で、 持続可能な経済社会をどう実現するか？

文/環境市民理事・大阪産業大学教授 花田 真理子

新しい年を迎えるにあたり、昨年3月11日の東日本大震災で犠牲となられた方、被災された方、そして今なお避難生活を余儀なくされるなど大変な思いをなさっている皆様に、心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。

今回の震災では、被災者の方々の毅然とした節度ある態度や、互いを思いやる心のあり方が、世界に感動を巻き起こしました。同時に私たちは、平常時には忘れていたけれど大切なこと、「地域のつながりの価値」や「お金では測れない豊かさ」、さらに資源制約・環境制約の中で「持続可能な社会」を実現するために何が重要かについて、あらためて深く考えるきっかけをいただきました。

そこでまず冒頭に、謹んで被災者の皆様と、ともに立ち上がろうと手を携えて活動されていらっしゃる全ての皆様に敬意と謝意を表したく存じます。

市場経済成長モデルの限界

今回の震災を契機に、自分がいかにエネルギー多消費型ライフスタイルに慣れきってしまっていたか気づいた方も多いのではないのでしょうか。震災後、多くの施設で節電が実施された結果、今までいかに無駄な使い方をしてきたか、また電気を前提とした設備が電気なしではいかに無能で邪魔なものか、痛感させられることになりました（写真1）。



写真1
東京の地下鉄構内。5列の蛍光灯のうち、ホーム両端の2列以外の3列は管が抜かれている。しかし支障はなく、従来が無駄に明るすぎたことに気づく。また柱の看板は全く不自由なく読めるが、中の電気照明が消えたホーム案内は読みにくい。（平成23年5月28日筆者撮影）

従来の市場経済では、たとえその原因や結果が望ましいものでないとしても、大量生産大量消費したほうが成長に資すると評価されてきました。環境汚染で健康被害が出たら、医療費の増加は経済活動にはプラスと計算されますし、深夜の街角を煌々と照らし電気を湯水のように使う自動販売機が増えるほど、生産活動は拡大と評価されるのですから。

たしかに産業革命以来の経済発展を支えてきたのは、大量のエネルギー供給でした。その前提には、資源エネルギーが無限に存在し、それを排出しても自然環境がちゃんと浄化してくれるという幻想がありました。「規模の経済」、すなわち同じものをたくさん作るほど1個当たりの費用は安くなり、利益率が上がるという考え方はその一例です。本当は使うほど地球の環境資源は減っていき、環境価値は下がっているのに、そのことは市場の価格に即座には反映されません。資源の価格は、採掘設備への投資や人件費など、すでに価格のついているコストだけをもとに算定されますから、市場経済での効率性だけ考えれば、わざわざ自然再生に手間やお金をかけるのは損です。つまり、環境負荷（マイナスの影響）に価格がついていない以上、経済的利得のためには環境保全コストは邪魔なものと考えられるわけです。

宇宙船地球号の前提

しかし地球の環境容量の限界があります。資源は有限ですし、浄化能力にも限りがあります。これが「宇宙船地球号」の考え方です。もし地球の再生能力や処理能力を超えて人間が活動すれば、将来にわたって確実に環境価値は減ってしまいます。この前提を無視して、技術開発ですべてを解決しようとした結果が、今回の原発事故を招いたと言えるでしょう。

化石燃料エネルギーの埋蔵残存量には限りがあり、CO₂を大量排出して温暖化が進むらしい、となった時、エネルギーの使い方を考え直すことよりも、増え続けるエネルギー需要にも安定供給で応え続けなければいけないというのが、経済成長優先のもとでの命題でした。そこで、エネルギーの生産過程ではCO₂を排

出しない、というただ1点でクリーンだと喧伝された原子力エネルギーが、先端技術の申し子として主役に躍り出てきたわけです。

しかしその結果はどうでしょう。今回の震災では自分が使うわけでもない電気を作る原子力発電所のために、数十万の方々がそれまでの生活のすべてを捨てて、避難を余儀なくされています。私たちは、原子力燃料が自然環境で再生（無害化）するのに気の遠くなるほどの時間が必要なことは無視してきました。もしも津波が襲ったら、というリスクも無視してきました。「より速く、より多く」と貪り続けてきた今までの経済社会は、技術的に可能となることにブレーキをかける自己規制メカニズムを持ち合わせていなかったからです。今こそ私たちは、「宇宙船地球号」という有限な環境に住んでいるのだという現実を前提とした経済社会モデルを考える必要があると言えます。

新しい経済社会の考え方

では、宇宙船地球号の中で私たちの社会が持続していくためには経済システムをどのように変えていく必要があるのでしょうか。

まず、現在のシステムにおける資源効率の向上と環境負荷の低減を極限までめざすことが必要です。資源は、すでに社会に財として存在する財を廃棄処分せずに、都市鉱山として使い尽くしましょう。宇宙ステーションでは尿も大切な資源として浄化して飲料水にするそうです。エネルギーは、再生可能エネルギーが基本ですが、特に地域特性に合ったエネルギーを分散型で生産することが大切です。

次に、自然が再生するための負担をコストとして課するような、例えば環境税のような制度を作っていくことです。それによって市場は、長期的な視野で環境負荷をコストとして認識でき、削減努力が評価される

ようになります。そうすれば資源エネルギー効率の向上や環境負荷削減の取り組みも推進します。

さらに、経済社会を構成する一人ひとりの考え方や行動を、「有限な宇宙船モード」に変えていくことが必要です。社会システムの変革も、技術進歩の方向を決めるのも、この地球環境に暮らす私たち人間の環境リテラシー能力があつてこそです。「環境価値の低減を敏感に感じることのできるセンス」や、「自然環境・社会環境の現状・課題を長期的な視点で理解できる能力」を育み、宇宙船の乗組員として責任ある行動ができる人を社会全体で育てていくことが非常に重要なのです。

最後に、宇宙船地球号の乗組員心得の一つとして推薦したい「知足」の考えをご紹介します（写真2）。「もっともっと」と貪り続け、経済発展を求めてきた私たちは、環境問題に直面し、残念ながら真に豊かな社会を実現できていません。限られた自然環境容量の中で、つながりを大切にしながら心豊かに暮らす社会を実現するためには、「知足」を経済社会に組み込む制度上の工夫が必要なのではないでしょうか。



写真2 龍安寺「知足の蹲踞」

中央の水穴を「口」の字に見立て、周りの4文字と共用し、「吾唯知足」（ワレタダタルコトヲシル）と読む。これは釈迦の教え「知足の者は貧しいといえども富めり、不知足の者は富めりといえども貧し」を図象化したもの。（龍安寺ウェブサイト <http://www.ryoanji.jp/> より）

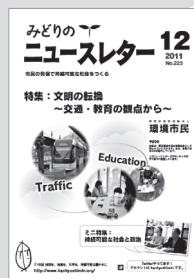


シリーズ「文明の転換」

ぜひ、11月号、12月号もあわせてご覧ください。



11月号
特集：今こそ文明の転換の時
 「原発をすすめる文明からの
 転換を」
 文/環境市民代表理事
 校本 育生



12月号
特集：文明の転換
 ～交通・教育の観点から～
 交通…
 大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻 准教授 松村 暢彦
 教育……環境市民理事
 環境共育事務所カラーズ 西村 仁志

●ニュースレターを読みたい方へ● 会員へは毎月無料送付しています。会員以外の方で購読をご希望の場合は1部200円（送料別）でお送りいたしますので事務局まで送付先をご連絡ください。

環境市民的 ビフォーアフター

～環境市民が引っ越しました!～

環境市民京都事務所が移転して、ひと月が経ちました。

そこで、今回は事務所移転前後、引っ越しにまつわるお話をどんとお伝えします。

●移転に至るまで

事務所の引っ越しが本格化したのは、2011年6月のこと。旧事務所には大量の物や資料が溢れ、棚という棚をすべて埋め尽くしていました。人の通り道である廊下でさえ、段ボール箱などが床に置かれ、人と人が行き交うことのできない空間になってしまっていました。

「このままではいけない。持続可能な社会をめざす環境市民の事務所が持続不可能になってしまふ」。そう感じていたのは一人や二人ではないはず。また、月々払う家賃を抑えることも常々考えていることでした。

引っ越しは、新事務所となる候補地のリストアップから始まりました。最終的に候補にあがった物件の数はなんと30件以上! そのすべての現地に行き、外観や内装を確認しました。なんといっても、これから毎日活動する新事務所です。質の高い活動を生み出し、毎日の活動をさらに活発にするためにも、快適なオフィス空間は非常に重要であり、できる限り妥協はしたくありません。しかし、賃料や効率性など、現実的にクリアしなければならない条件から外れることもできません。30数件の候補の中から、賃料、敷地面積、立地条件、使いやすさ、自転車置き場の使い勝手などの項目から総合評価をし、消去法を繰り返しながら絞り込み、10月の初旬に新事務所が現在の第二ふや町ビルに決定しました。

この引っ越しには三つの大きな目的がありました。それは、①賃料の軽減、②業務スペースの拡大、③事務所の書類整理の三つです。さて、これらは達成できたのでしょうか。その成果は後ほどお話ししたいと思います。

●引っ越しの鍵を握っていたのは……

「移転ができるか否かは、限られた時間内で資

料等の整理ができるか否か、だった」。そう語ってくれたのは、この引っ越しの旗振りを担ったスタッフの小出さんです。なんといっても環境市民、引っ越しを行ったこの時期は一年で最も忙しい時期でした。

実際、引っ越しのピークとなる11月24日から12月11日の間、数人のスタッフは連続する国内・海外出張のためにほとんど事務所に来ることができず、絶対的なマンパワーが不足することが何よりも不安だったそうです。

新事務所が決まった10月初旬、早々に日程表を作成し、スタッフの間で情報共有をします。そして引っ越し作業をドラスティックに進めるため、引っ越し作業の集中取組期間を設定しました。環境市民は旧事務所に16年もの歳月を過ごしていました。その間、定期的な書類の整理はなかなか行われず、相当な物量がありました。当然一日では運びきれません。11月初旬から書類の整理を始め、棚ごとに、あるいは物の種類ごとに日を分けて徐々に運び出しをしました。

大物は業者の方をお願いしたものの、自分たちで運べるような物は、自分たちで車をだし、手作業で荷物を運びました。しかし、それでも日々の業務のため、なかなか引っ越し作業に手がつかないのも事実。普段から環境市民に出入りするボランティアのさんにも引っ越し作業を手伝ってもらいました。棚から溢れる書類を整理し、重い段ボール箱を抱えたまま階段を上り下りするなど、決して楽な作業ではありませんでした。引っ越し作業をスムーズに終えることができたのはボランティアのみなさんのおかげです。

●行こう! 新オフィス

さて、ここからは新事務所について写真を交えながら紹介していきたいと思います。旧事務所は玄関から伸びる細長い間口でしたが、新事務所は解放感があるつくりになっています。以前は廊下の両サイドから壁に迫られるような感覚がありましたが、みんなの顔が見渡せるほどに広大になりました。この解放感、写真から伝わるでしょう

か。床も以前のタイルから絨毯素材になり、温かさと柔らかさを感じられるようになりました。快適な環境は、きっと創造的な活動を生み出していくことでしょう。



続いて、こちらが新図書室です。なんということでしょう。以前は本棚に囲まれ、机からイスを引き出すことさえままならなかった密室が、明るい朝の



陽ざしが輝く素敵な図書室へと完全に移行しました。まだ多少片付いていない荷物が残っていますが、以前にはなかった二つの窓から差し込む陽光が新しい図書室の魅力を存分に引き立てていくことでしょう。二つの窓のうち一つは北向きのため、手を加えていないままなのですが、残る一つと他の部屋のすべての窓は事務所を借りる際に擦りガラスから透明なガラスへと改修しました。

できるだけ自然のエネルギーを利用し、太陽光を招き入れるところが何とも環境市民らしいですね。それに、窓の外景色を見れることは活動の中で一息入れたい時など、疲れをほっこりと和らげてくれるかもしれませんね。

●さらなる活動の発展へ

さて、先述したようにこの引っ越しには①賃料の軽減、②業務スペースの拡大、③事務所の書類の整理、という三つの目的がありました。これらは達成されたのでしょうか。

まず、一つ目の目的については、今回の引越しで大幅な年間賃料の経費削減が実現しました。今まで賃料に充てていた額を活動に使うことができれば、さらに活動の幅が広がるのではないのでしょうか。さらに家賃が安くなっただけではありません。床面積が20%アップしたことで業務スペースの拡大という二つ目の目的が達成され、三つ目の目的である事務所の整理についても大きな成果をあげました。棚に資料をつっこんでいるだけの状態が長く続き、単純な整理整頓では解決不可能なくらいになっていた状態から、見事資料の量を半減させることに成功しました。それにより、本当に必要な資料と不要な資料の区分けができたのです。

今後の活動が大きく飛躍しそうな気配が漂う新事務所。溢れていた資料が減り、広い間取りで日当たりも良くなった環境市民の事務所。安くて、広くて、明るくて、きれい！ 快適な環境で活動も活発になること間違いなし！さらなる環境市民の発展に貢献することが間違いのないでしょう。私たちも新事務所に恥じない活動をしなければなりませんね。

と、徒然なるままにお話しましたが、やはり百聞は一見に如かず！新事務所にはカフェコーナーもあります。ご自身の目で環境市民の新事務所、そして活動をご自身の目で見に来てください。そして、一緒に楽しく、明るく、有意義に活動をしましょう！



★事務所の開いている時間は平日10:00から18:00です。

(文/ニュースレター編集部 石田 浩基)

社会を変える、社会に伝わる、NGOの広報力UP講座 効果的な広報を行うコツって何？

●活動そのもの

NGOにとって広報活動とは、「活動そのもの」といってもいいほど重要です。社会を変えていくために活動を行い、それをより多くの人に伝え、共感してもらうことによって、活動への共感や支持をしてくれる人、寄附や会員になってくれる人を増やすことができます。社会を変えるための活動を支えてくれるチカラを得る活動、といってもいいでしょう。しかし、実際には広報までなかなか資金や人手がさけないのが現状です。

そこで、環境市民では、「社会を変える、社会に伝わる、NGOの広報力」と題する連続講座を、11月19日(土)、20日(日)、12月4日(日)に、熊本国際交流会館(熊本市内)にて実施しました(主催:独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金、企画運営:NPO法人環境市民)。

●記事にならなくても気にしない

集まったのは、環境系を中心とするNPOのスタッフやボランティアメンバー14団体。11月19日の第1回では、NGOにとっての広報とは活動をそのものであることを確認した後、環境市民の事例を交えながら、マスメディアからソーシャルメディア、チラシや口コミなど各種メディアの特性を学びました。「伝わる広報文の書き方のコツ」では、(有)ミューズプランニング取締役の伊藤美佳さんを講師に、イベントの広報文を例に、アピール度の高い広報文の作り方を学びました。さらに、フリーライターの立藤慶子さんを講師に、ウェブサイトやメールマガジンをつくる際のコツを学び、団体のウェブサイトのトップページをつくってみる、というワークショップをしました。

環境市民では、会報誌「みどりのニューズレター」、ウェブサイト、ラジオの主に関する三つの独自媒体があります。それぞれにボランティアからなる広報チームがあり、このチームの存在が、環境市民の広報力になっています。二日目の第2回は、こうした、広報を行っていくために要となる「体制」づくりを紹介しました。また、熊本日日

新聞の記者、久間孝志さんを講師に、メディアの活用方法について学びました。「実際に報道されるかどうか気にせず、どんどんメディアに情報を送って、コミュニケーションをとることが大事」と久間さん。何か行事をする時だけ広報していた参加者が多い中、重要な示唆となりました。最後に、まだ、NGOがあまり活用できていない、ラジオやテレビといったメディアの活用方法について紹介した後、団体ごとに、2日間の講座をふまえて広報戦略を練るワークショップを行いました。

●社会を変える力に

12月4日に行った第3回は希望制で四つの団体が2回目の講座の最後に作成した広報戦略シートをもとにそれぞれ約1時間半の相談会を行いました。「広報を組織全体でどう取り組んだらいいのか」「マンネリ化しがちなチラシのデザインをどうすればいいか」「どうやったらウェブサイトを立ち上げられるか」など組織のマネジメントから具体的な広報方法に至るまでさまざまな相談内容がありました。



第3回個別相談会で熱心に質問を投げかける相談者とアドバイザー

3日間の講座を通してあらためて、NGOにとって広報力のUPが切実な課題であることを感じました。環境市民も含め、NGOの広報力をUPさせていくための取り組みをこれからも続けていきたいと思います。

(文/事務局 有川 真理子)

行ってみよう
見てみよう!

『環境市民 新オフィス おひろめ会』

環境市民は12月から新しいオフィスに引越をしました。ちょっと広くなって明るくなって、ミーティングもしやすくなりました！そこで、新オフィスおひろめ会を開催します。環境市民ははじめて、という方も、昔活動していた方も、今活動中！という方もお気軽にお越し下さい。エコロジカルな軽食&おやつを用意しておまちしています（差し入れ歓迎）。



新オフィス
クイズラリー

スタッフの誰かがこの質問の答えを知っています。ぜひ当日、知っていそうなスタッフをみつけたらきいてみてください。三問正解した方には……すてきなプレゼントが待っています。

- Q. 引越を決めた環境市民。環境、NGOの視点から、新オフィス選びのポイントはなんだったでしょう？
- Q. 新オフィスは残念ながらガスが使えません。お湯をわかすために選んだポットはどんなポットだったでしょう？
- Q. できるかぎりオフィス家具もグリーン購入しました。その決め手は？



new
office



〒604-0934京都市中京区麩屋町通二条下る225 第二ふや町ビル405号室
Tel.075-211-3521 Fax.075-211-3531

とき 2011年1/29(日) 12:00から午後3:00

* 参加費カンパ制 *

チーム・バベルは仲間を求めています！

～映画「バベルの塔」上映会 企画メンバー募集～

3月11日に起きた原発事故によって原発の安全神話が崩れました。今回、福島原発事故の取材、そして原発の問題についてつくられたドキュメンタリー映画、それが「バベルの塔～続 24000年の方舟」です。環境市民も映画の一部で登場しています。

より多くの人に、原発の問題を知ってもらうため、この映画の上映会を来年3月頃に開催することにしました。そこで、一緒にこの映画の上映会を行うメンバーを募集します。特に学生や若い人に興味をもってほしい、企画に携わってほしいと考えています。より多くの人に原発問題を知ってほしい、多くの人に伝えたい！ と思っているみなさん。ぜひ私たちと一緒に上映会を開催しましょう！ 関心のある方はお気軽に環境市民までお問い合わせください。



環境市民がコーディネートする交野市環境基本計画策定事業の進捗を紹介します。

交野市、環境基本計画策定中間発表会を開催しました “みんなで語ろう「かたの」のあした”～そのアイデア・教えて～

●計画策定プロセスのハイライト

昨秋から始まった、環境市民がサポートする大阪府交野市での環境基本計画づくり。本格的な市民参画で1年半かけて策定作業をし、来春に計画が完成する予定です。去る11月26日と12月4日にその中間発表会が開催されました（主催：かたの・環境を考える委員会、交野市）。委員の皆さんの一番の見せ場となる大舞台です。

●委員手作りの発表会

今回の発表会は、委員会がこれまで検討してきた、交野市の環境をよくするためのプロジェクトやビジョンを、広く市民の方々に知らせてご意見をいただくとともに、計画を一緒に進めていく仲間を募ろうというものです。多くの方の参加の機会を作りたいと2回の発表会を開くことにし、委員自らが手分けして駅前であらしを配ったり、ポスターを貼ったり、マスコミに呼びかけたりしました。

発表会の運営もすべて手作りです。計画案を考えながら、企画、広報、資料作成、運営について、それぞれが自主的に集まって準備を進めてきました。

残念ながら1回目の参加者は多くはなかったのですが、その反省を踏まえた2回目には、仲間に加わってくれそうな市民がたくさん来てくれました。その様子をお伝えいたします。

●すばらしいパフォーマンス

市民委員二人の司会の開会宣言の後、交野市の中田市長より挨拶がありました。続いて、委員会を代表した挨拶と趣旨説明。市も委員一人ひとりも交野の環境に熱い思いを持って真剣に取り組んでいることが伝わってきました。

それから、環境基本計画で10年後にはどんな“かたの”が実現するのか、「総合ビジョン」について発表がありました。歴史や文化、自然と人のあたたかさに恵まれた交野市のよさを未来にずっとつないでいく将来像が示されました。

そして、計画の中で最も大切なプロジェクトについての発表です。委員会では自然環境保全、まちづくり、エネルギー、エコ生活の四つの分野に分かれて議論してきたプロジェクトを、それぞれのグループから紹介しました。グループごとに趣向を凝らし、市内の写真を見せたり、コントや劇を披露したりしながらの大熱演。会場から大きな拍手が贈られました。

発表後は意見交換会です。四分野ごとにテーブルに分かれ、参加者には関心のあるテーマの席に座っていただき、各グループが発表したプロジェクトについて意見を交換しました。どのグループも議論が盛り上がり、終了まで話が尽きることなく続けられました。



工夫を凝らした発表で会場を盛り上げました

●「ぜひ実現してほしい」

アンケートでは、計画づくりを高く評価する声が寄せられました。

「多くの市民が交野のことを真剣に考え、自発的にいきいきと活動されていることに感銘を受けた」「一年間でここまで作り上げてすばらしい。これからもっと多くの人を巻き込んでいく必要があると思う」「市長を始め市職員が交野市をよくすることを考えているのがわかった」「どのプロジェクトにも興味があり、どれも実現してほしいし、実現すべき」「意見交換会では、委員の方が苦勞して考えた案を聞いて自分も委員の一人になった気がして面白いと感じた」など。新しくメンバーに加わってくださる方も現れそうです。

●心を一つに これから大詰め

この発表会の開催を通じて、委員の皆さんも市職員の皆さんも気持ちが一つになり、環境基本計画を中心にぐっとまとまった感じがします。これからパブリックコメントを経て計画のまとめ上げと、同時に、計画の推進体制を準備する作業に入っていきます。

いよいよ、最終段階。さらに盛り上がる交野市環境基本計画策定の動きにご注目ください！

(文 / 交野市環境基本計画策定事業コーディネータ
南村 多津恵)

行事案内 1月

京 1 Day ボランティアデー

毎月エコな話題をおしゃべりしながら会報誌みどりのニュースレター発送作業をしています。どなたでも参加できます。環境市民の事務所ってどんなところ？

どんな活動をしているの？ などいろんな質問にもお答えします。新しい事務所を見たい、と思う方もぜひお気軽にご参加ください。

*とき:2012年1月31日(火)午後2:00から午後7:00頃まで

*ところ:環境市民京都事務所

*備考:予定時間を過ぎて来られる場合は、ご連絡ください。

京 新企画 ぬいカフェ

2012年1月15日、明るく風通しのいい新事務所(♪)にて、気持ちも新たに、新プロジェクトが始動します!!

名付けて「ぬいカフェ」。みんなで持ち寄ったお菓子とお茶を楽しみながら、お気に入りの布や糸でカワイイ小物をチクチクぬいぬい♪

エコ口話にも花が咲くことうけあいです♪

もう着られないけど捨てられない……思い出の服や穴のあいた靴下、かわいい柄が愛おしい布やボタン、リボンや糸たちがお家で眠っていませんか？

「いつか使おう」と思っているもついついタンスの肥やしに……そんなあなた、ぬいカフェでリフォームデビューしてみましょ♪

作ってみたいけどぶきつちよで……そんなあなたも大丈夫。基本は小学校で習ったあの運針(並縫い、ぐし縫い)です。まずはカワイイふきんから♪ 不揃いの針

京 環境市民 東 環境市民東海 滋 環境市民滋賀

目たちもきつと、キッチンに笑顔を運ぶ素敵なスパイスになりますよ♪

慣れてきたら、マイ箸袋やお弁当バック、キッチングッズや携帯バック、おしゃれ小物なんかも作っちゃいましょう!!

「こんなもの作ってみたい!」も大募集。写真や現物、デザイン画や構想(気持ち)だけでも持ち込めば、ぬいカフェで思いが形になるかも♪

*とき:2012年1月15日(日)午後1:00から4:00

*ところ:環境市民京都事務所

*参加費:カンパ制(茶菓子代、材料費)

*持ち物:

- ・作りたいものがある人は、その材料と裁縫道具。
- ・特に決めていない人は、カワイイふきんを縫いましょう。
- ・おススメまたは食べたいお菓子、飲みたい茶葉(大事!)

※生地と糸などはご用意できます。好きな生地と糸を持って来てもモチロンOK。(麻や木綿の平織布が縫いやすいと思います。慣れている人なら使い古しのタオルに太めの糸などでも)あとは針、指ぬき、はさみ、(あれば)チャコペンなど。

*申込み:名前、電話、FAX、メールアドレスを環境市民までご連絡ください。ぬいカフェで借りたい道具、使いたい材料があればその内容もあわせてご連絡ください。ぬいカフェへのメッセージもおまちしています。メール:nuicafe@kankyoshimin.org

Chiku Chiku
Nui Nui...



滋 ユリカモメの通勤

びわ湖のユリカモメは冬鳥で、夜間はびわ湖で休んでいます。朝になると大群になって京都の鴨川などに移動し、餌を食べています。元旦にびわ湖湖岸で、集まってきて大群になって京都に飛んでいくユリカモメを観察します。

- *とき：2012年1月1日(元旦)午前6:30から7:30
- *ところ：滋賀県大津市不動川河口（大津市茶が埜、琵琶湖競艇場北側）
- *参加費：100円
- *注意：雨天中止、防寒対策が必要
- *申込み：滋賀事務所
メール：cefshiga@kankyoshimin.org
- *申込締切：12月24日(土)

新入会員 インタビュー

高橋 めぐみさん
(滋賀県在住) 11月28日入会

たくさんの草花に囲まれて育ってきた中で、私は、豊かな自然があってこそ人は幸せになれると気づきました。願わくば、今の子どもたちにも同じ意識を持ってほしい——それには、理科や社会の授業の中で教えるだけじゃない、新しい形の環境教育を、NPO・NGOなどが推し進める必要があると思います。そういった活動に携われたら嬉しいですね。

新入会/寄付 (11月1日から11月30日まで)

〈新入会〉悦田 和久/河野 拓朗/高橋 めぐみ
〈寄付〉大島 むつみ/長崎 純一/原 育美/新宗連京都府協議会/環境 NGO・NPO レベルアップ研修受講者

新年事始め ニュースレター編集部 ボランティア募集!

*ミーティング
2月27日(月)午後7:00から

新年スタート。今年は何をしようかなあ、と検討中のみなさん。

2012年は、環境市民の会報誌「みどりのニュースレター」編集部ボランティアに参加してみませんか。「読む」側から「伝える」側へ。2月27日(月)午後7:00からは2012年度の企画ミーティングをします。参加される方は京都事務局までご連絡下さい。



こんな人
募集!



坂部安希

外国人の方希望! 2011年、ニュースレターに関わって気付いた事は、「世界を意識した視点」の大切さです。国の違う仲間が加わってくれたなら、きっと今までにない発想が浮かぶはず!(ついでに語学学習も期待したり) ご連絡お待ちしております。

将来、NPOで活動したいという想いのある若い人に来てほしいです! ほやっとした想いでも大丈夫です。ニュースレター編集部として活動しながら、環境市民のをそいてみてください。きっとその想いが鮮明になるはずです。若い目線で一緒に編集部を盛り上げていきましょう!



石田浩基

みどりのニュースレターの取材! と銘打って、持続可能な社会づくりの最前線へ。日本、そして世界を取材しよう! あなたの、私の記事が、地域から社会を変えていくチカラになります。持続可能な社会づくりのヒントを一緒に見つけていきましょう!



有川真理子



千葉有紀子

生きることは食べること、せつないけれど、毎日なにかの命をいただいで生きている私たち。食べることやそこにつながる生き物に興味のある方、一緒に活動しませんか。伝える前に考える仲間が必要です。楽しさを共有しながら伝えていきましょう。

少しでも環境をよくしたい! 「環境について詳しく知りたい」などなど環境に関する思いをもたれている方は環境市民へ。ぜひ編集部にきていただき、その思いを一緒に伝えていきましょう。お待ちしております。



角出貴彦



みどりの仲間たち

♣ 持続的社會を旨として活動する仲間たちです

『 持続可能な熊本を提案する NPO 法人環境ネットワークくまもと 』

命を育む環境を、次世代に引き継いでいくために、“つながる（ネットワーク）”、“伝える（共に学ぶ）”、“共に築く（パートナーシップ）”を活動の三つの柱として、熊本地域をベースに1994年10月から活動を展開しています。

● 主な事業は地域の発意で、 地域を変える（環境政策）

持続可能な社会づくりを促すために、環境市民とも連携しながら、環境首都コンテスト全国ネットワークに参加し、「環境首都コンテスト」に取り組んできました。2011年には水俣市が環境首都となるなど、今後は、さらにステップアップし、地域の戦略的な環境取

組を支援していきます。

● その学びから地域が変わる （環境教育）

多主体と連携を組み、国際的な視野をも取り込んだ次世代を担う子どもたちへの環境教育の充実をはかり、地域環境人材育成に取り組んでいます。国際認証「FEE Japan エコスクールプログラム」や「日韓青少年環境交流プログラム」などを展開しています。

● 地域のエネルギーをシフトする （かんくまおひさまプロジェクト）

熊本地域の市民や事業者、NPOが協力し、九州ならではの地域特性“太陽の恵み”を活かした自然

エネルギー創造事業を展開しています。2011年度は、アサヒビール（株）「うまい！を明日へ！プロジェクト」寄付の支援をいただき、地域での安心・安全な自然エネルギーづくりを推進しています。（文／NPO 法人環境ネットワークくまもと事務局 園田 敬子）



えほん

♣ こどもから大人までセンス・オブ・ワンダーを感じるオススメ絵本をご紹介します。

『 くいしんぼうのあおむしくん 』

榎 ひろし（作）、前川 欣三（画） 福音館書店、1975
（こどものとも傑作集） 価格：800円＋税

我が家の二人の子どもが好きだった絵本です。

ある日、まさおくんの帽子に穴をあけた小さなあおむしくん。人の良さそうなあおむしくんなのですが、その食欲たるや、凄まじい。

まさおくんの両親や、まちを食べてしまい、仕方なく二人は旅に出ます。まさおくんを背中に乗せたあおむしくんは、時に反省をしながらも、次から次に、山、まち、港を食べていきます。工場を食べた時には、公害の元を食べてくれたと歓迎されますが、出されたごちそうだけでなく村の人たちまで食べてしまうのでした。

そして、「もう なんにも ありません」。見開き2ページの「なんにもない」荒野が圧巻です。次のペー

ジの、長く影を引く点のようなま

さおくと、巨大な巨大なあおむしくんの対比も映画の1シーンのようです。

「あおむしくんは、どんどん たべるから ずんずん おおきくなります。ずんずん おおきくなるから どんどんたべるのです。」1975年に出版されたこの絵本。あおむしくんは人間の欲望のように思えます。その後40年近い月日のうちにもどれだけ欲望が大きくなり、どれだけ資源を食い尽くしたかと思うと背筋が寒くなります。シュールな、本質をついた絵本であると思います。（文／環境市民会員 吉橋 久美子）



● ご意見・ご感想宛先 ●
メール・FAX・郵送で
お送りください

(MAIL) newsletter@kankyoshimin.org (FAX) 075-211-3531

(郵送) 〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下る尾張町225番地 第二ふや町ビル405号室
NPO法人環境市民 みどりのニューズレター編集部 宛



環境市民

かんきょうしみんぶんのいち

★環境市民の会員を紹介します

no.80 高津玉枝さん

フェアトレードを事業の核とした会社を経営。3.11以降は東北支援事業EASTLOOPも展開している。

●EAST LOOP ウェブサイト
<http://www.east-loop.jp/>



自分たちの買い物はどへへつながっているのだから 意識するだけで世界が少し見えてくる

―会社を起業するということはご自身の夢や目標だったのでしょうか

起業をしたいと思っていたわけではないですね。ただ、漠然と一生、社会と接点を持つ働き方をしたいとは考えていました。新卒で入った会社はとっても良いところでしたが、当時は男女雇用機会均等法がまだできておらず、育児休業・再雇用制度もありませんでした。会社では女性が長く働けるロールモデルが見えなかったんです。そこで「手に職をつけよう」ともともと好きだった雑貨の商社に転職しました。しかしそこでは忙しさから突発性難聴を患いやむなく退職。その後はフリーでラッピングコーディネーターなどの仕事をしていました。あるとき大手の広告会社と仕事をするようになったのですが、給料の支払いの段階になつて「会社組織でないと支払いができない」と言われたんです。その時なんかかともって頭にきましてね。それならと会社を設立しました。1991年です。

―フェアトレードに関心をもたれたのはいつですか

この会社では百貨店・小売店の売り場づくりを総合的にプロデュースする仕事をしていました。しかし90年代後半から世の中はデフレの嵐。顧客が企

業である以上どうしても価格面でのメリットや単に売れば良いという仕事にシフトせざるを得ず、自分の仕事に誇りを持たない時期がありました。そんな中でたまたまフェアトレードという概念に出会ったんです。「途上国で困っている人の物作りや流通を手伝ってその人たちが豊かになれば素晴らしい。そしてそこにはマーケットに関するノウハウを持っている自分たちにしかできないことがあるはず」と、さっそくインドへ視察に行きました。しかし現地で作られている商品のほとんどは、とても日本のマーケットにのせられるような品質ではありませんでした。唯一、オックスファムという団体の作っている商品の品質がきちんとしており、日本に戻って調べたところ、イギリスに800店舗(当時)もショップを持っていることがわかりました。

そこで、当時日本にオックスファムの窓口はなく調整員という人がいるだけでしたが、押しかけて行ってプレゼンをしたところ、私に関心を持ってくださいました。その後はオックスファム日本の立ち上げにも関わりました。結局立ち上がったオックスファムジャパンはフェアトレード事業を行わなかったのですが、このNGO組織との関わりの中で様々なことを学びました。フェアトレードがメインストリー

ムになるためには、NGO組織だけでなく一般企業が取引をし、市場とのアクセスを常にサポートしていくことが必要だということがわかりました。

―フェアトレードの会社を起こしたのはいつですか

2006年に以前から付き合いのあった、都会の真ん中にある商業施設から、「クリエイターズマーケット」というイベントを計画しているが、出展してくれそうな店を知らないか」と相談がありました。そこで、これは一等地に店を出すチャンスだと思い急遽自ら会社組織をつくり、フェアトレード商品を扱う店を立ち上げました。

―東北支援事業EAST LOOP について教えてください

誤解を恐れずにいうと、東北地方でこれから起こりうることは途上国の厳しい環境に置かれている人たちに似ています。交通アクセスがないから仕事がない、土地がないから産業が成り立たない、そして施されるばかりになる。自分たちの国の人が途上国と同じ厳しい状態になっているのに何もしないわけにはいきません。そこで現地に入って仕事を作るEASTLOOPという事業を始めました。

―フェアトレードを通して世界を意識できる人を増やしていくことが私のミッション」と話す高津さんの襟元を

編集後記

大イベントである引越しも終わり、新事務所の方も少し落ち着いてきました。無事に2012年を迎えられそうです。2011年は人との繋がりや絆について強く意識した一年でした。2012年も新たな出会いを求めていると思います。みなさんもぜひ、出会いを求めて新事務所にも来てみてください。

(文/ニュースライター編集部 石田 浩基)

編集部 (五十音順)

有川 真理子
石田 浩基
風岡 宗人
久保 友美
坂部 安希
角出 貴彦
鷹野 圭
武田 麻里

千葉 有紀子
村田 諒平
和氣 未奈
デザイン 智子
下司 智子

EAST LOOPで作られたブローチが優しく彩っていました。
(文/ニュースライター編集部 坂部 安希)

グリーンウォッシュウォッチャー募集!

エコや環境にいいと訴える製品のCMや広告、製品の表示で、「変だな? 本当に環境配慮なのかな?」と疑問に思ったものはありますか?

根拠もなく「エコだ」といったり、一面だけをとらえて「全ての環境負荷が下がる」といった見せ方をしていたり。こうした伝え方は、消費者の信頼を失い、環境配慮製品を選ぼうという消費者を減らすことにもなりかねません。このように、ごまかしたり、うそをついたりしている広告を、欧米では「グリーンウォッシュ」と呼びます。

そこで、みなさんが見た「グリーンウォッシュ広告では?」と思った広告、表示を募集します。「グリーンウォッシュ」をなくし、本当に経済を環境に大切にしたもの、生活をエコでより良いものにするために、みなさんのお力を貸してください!

ウォッチャーになろう!

関心がある方であればどなたでもなれます。希望される方は ①お名前 ②連絡先電話番号 ③お住まい(都道府県のみ) ④連絡先メールアドレスを書いて green@kankyoshimin.org まで送ってください。

グリーンウォッシュと思われる広告を教えてください

グリーンウォッシュではないか、と思われる情報がありましたら、以下のフォーマットを活用し、green@kankyoshimin.org または FAX 075-211-3531 に送ってください。

お名前 ①どこの会社の表示・広告ですか ②どんな商品の表示・広告ですか ③どの媒体で見ましたか テレビ/ラジオ/インターネット/街頭の表示/製品パッケージ/雑誌/本/その他(具体的に) ④どんな表示・広告ですか(簡単に) ⑤どこが変だな? と思いましたか? ⑥連絡先(メールまたは電話) ⑦(可能であれば) 広告や商品パッケージの写真

※いただいた連絡先は、この件以外に使用することはありません。内容の確認のために連絡をすることがあるかもしれませんのでできる限り、連絡先をご記入ください。

📻 ラジオ番組 「環境市民のエコまちライフ」 京都三条ラジオカフェ (79.7MHz)

身近な話題から旬の話題まで環境の視点から情報発信 ● 放送時間: 毎週月曜午後 1:00 から 1:15 (再放送は火曜朝 7:00 から) インターネットでの試聴・ダウンロードはこちら → URL: <http://kankyoshiminradio.seesaa.net/>

環境市民に 入会しよう!

環境市民は、多くのボランティアと会員の皆さんの参加によって支えられています。「持続可能で豊かな社会づくり」のために、ぜひ会員になって環境市民の活動を応援してください!

会員特典

- 月刊会報誌「みどりのニュースレター」をお届けいたします。
- 行事などの参加費を割引させていただきます。
- 環境に関する様々な情報を得たり、また質問や相談ができます。

会費

種別	年会費	入会金
個人会員	4,000円	1,000円
ペア会員	6,000円	2,000円
シニア・学生会員	3,000円	—
ファミリー会員	8,000円	2,000円
助成会員	10,000円	—
特別助成会員	50,000円	—
終身会員	一括 80,000円	—
営利法人会員*	1口 50,000円	50,000円
非営利法人会員*	1口 10,000円	2,000円

※ 年会費は一口以上

会費の振込み方法

- 1) 郵便振替振込用紙に、住所・氏名・電話番号・会員の種類・送金内容事項をご記入の上、「年会費+入会金」をご入金ください。(※シニア・学生・助成・特別助成会員は入会金不要)
- 2) ご入金を確認後、最新のニュースレター、入会記念としてポストカードをお届けします。

寄付をする

住所・氏名・電話番号・寄付金額をご明記の上、下記の振込先へお振り込みください。

会費・寄付のお振込み先

【郵便振替】 口座番号: 01020-7-76578
加入者名: 環境市民

(発行) 特定非営利活動法人 環境市民 (代表) 校本 育生 (発行人) 堀 孝弘

TEL: 075-211-3521 IP 電話: 050-3581-7492 FAX: 075-211-3531

E-mail: life@kankyoshimin.org URL: <http://www.kankyoshimin.org>

〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下尾張町 225 番地 第二ふや町ビル 405 号室

(月から金午前 10:00 から午後 6:00)

● 環境市民 東海事務所

TEL&FAX: 052-521-0095

E-mail: tokai@kankyoshimin.org URL: <http://www.kankyoshimin.org/tokai/>

〒451-0062 名古屋市西区花の木 1-12-12 AOI ビル 4 階

● 環境市民 滋賀事務所

TEL: 077-522-5837 E-mail: cefshiga@kankyoshimin.org

〒520-0046 大津市長等 2 丁目 9-12 竺 文彦気付



この印刷物は風力発電による自然エネルギーを使用して植物油インキで印刷しました。印刷: (有) 糺書房

本誌の無断複写・複製・転載を禁じます。
「環境市民」登録商標 第4809505号



環境市民
Citizens Environmental Foundation

